

評価結果概要表

作成日 平成 21 年 9 月 29 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0572608982号
法人名	ユウゲンガイシャ 有限会社 白岩の郷
事業所名	グループホーム花みづき
所在地	仙北市角館町白岩1 / 角館町白岩新西野207-1 (電話) 0178-55-5272
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年8月20日

【情報提供票より】 (平成21年7月31日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 (常勤 14 人 非常勤 2 人 常勤換算 15.2 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低 53 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	仙北市立角館総合病院、佐藤医院、城南堂歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

昨年にユニットを増設し、開設時からの理念である「自立と相生」を新しい職員も交えて話し合い、全職員の共通認識の基で利用者一人ひとりの生活支援にあたっている。法人代表者は、職員の質が利用者へのサービスに直結するとの考えから、すべて正職員で雇用しており、年間研修計画に沿った研修受講や他事業所を訪問しての相互交流など、職員のスキルアップに向けても積極的に取り組んでいる。また、家族への情報提供や緊急時の設備など、ユニット増設を機に様々な取り組みが生まれており、今後は事業所全体の取り組みとしての展開が期待される。さらには、地域住民による利用者の見守りや避難訓練の合同実施など地域との連携・協力体制が充実しており、通所介護など多機能性についても必要性を認識していることから、地域の福祉拠点としてのあり方を模索しながら今後の取り組みにつなげてほしい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	投書箱の増設や利用者の希望に応じた量の部屋への対応など、前回調査時から改善につなげている。 なお、「家族会」について検討しているが実現には至っていないため、引き続き設立に向けて働きかけてほしい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニット毎に改めて自己評価を行い、前回外部評価を基に改善計画をたてるなど、ケアの質を向上させる機会として再確認しながら全職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では事業所の運営報告や行政、地域の情報を把握しているほか、毎回「虐待防止」や「避難訓練」などのテーマを決めて意見交換している。 なお、前回調査時から通所介護の必要性を認識していることから、建設的な意見や助言を求めながら可能性を検討してほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	投書箱を増設したり、毎月の連絡帳で家族の意向把握に努めているほか、面会時や電話などでも意見や要望がないか確認している。 今後は、家族の意見を集約するためにも、家族会の設立に向けて前向きに検討してほしい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ユニット増設により地域のニーズに応え、法人代表者が地域の防犯協会長を務めるなど地域とのつながりを密にしている。 また、お互いの行事に参加する関係が続いており、小学校との交流も盛んで、利用者への声かけや見守りなど理解と協力が得られている。

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自立と相生：住み慣れた場所での自立した生活を支えたり、地域の中でお互いが助け合うことで一人では出来なかったことができたり、新しい経験をする事で価値ある人生を送って頂くことを支援している。	○	地域社会との係りをより推進したい。	「自立と相生」を基本理念に掲げ、昨年のユニット増設時にも理念について話し合い、住み慣れた地域の中で、お互いに支え合いながら自立した生活を続けることを基本としている。	○	地域との関わりを深めたいと意欲的であることから、地域密着型サービスとしてのあり方を職員間で再確認しながら、利用者及び家族が理解できるような理念の構築に努めてほしい。
			「自立と相生」：当ホームは一人ひとりに合った必要な援助で自立を支えながら、お互いが助け合うことで一人では出来なかったことが出来たり新しい経験をする事で価値ある人生を送って頂くことを支援している。	○	地域との関わりをより深めたい。			
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニット毎の全体会議、2ユニット合同の管理者会議を月1回開き、意見交換している。また、毎日の業務の中でも意見交換している。	○		手書きの理念を玄関に掲示し、毎月の職員会議やユニット合同会議でも職員間で理念を共有しながらケアに反映させている。		
			毎月1回の全体会議での確認と毎日の業務の中で意見交換し取り組んでいる。	○				
3	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームで行う行事を家族の方と地域の方たちと共催したり、「花みづき通信」を発行し交流や理解を深めている。	○	地域の人や家族の人たちに講演をしたり、座談会を開く等して相互の理解を深めたい。			
			「花みづき通信」「2号館友の会」の定期的な発行等で理解を深めている。	○	認知症高齢者者への理解を深めたい。			
2. 地域との支えあい								
4	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や畑いじりをしながら、ご近所さんとコミュニケーションを取ったり、お花や野菜を頂くこともあり、良好な関係ができています。	○	お花や秋の葡萄狩り等、ご近所さんも一緒に出かけている。			
			開所して1年未満のため、1号館ほど気軽に立ち寄ってもらってはいないが、夏祭り等の行事を通じて交流を深めたい。	○	日常の挨拶の他、行事等で深めていきたい。			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や白岩小学校の学芸会に出かけ、交流している。	○		法人代表者が地域の防犯協会の会長として関わり、事業所を含めた地域の安全に取り組むなど、町内会との関係が良好である。 また、夏祭りなど事業所行事には地域の方々がボランティアとして参加したり、利用者が小学校の運動会や発表会に出かけるなど、地域との交流が図られている。	○	地域の理解と協力が得られていることから、今後は地域ニーズの把握に努め、地域の福祉拠点として何ができるか模索しながら地域への還元に努めてほしい。
			地域の運動会、白岩小学校の発表会等に参加して交流を深めている。	○				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6		○事業所の力を活かした地域貢献	2ヶ月毎の運営推進会議の中で話し合っている。	○				
		利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の民生委員や老人クラブ会長等で構成している運営推進会議で認知症への取り組みや防災への取り組み等を2ヶ月毎に開催し地域との理解を深めている。	○				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用	1年の通信簿として、外部評価及び自己評価を活かしている。	○	月1回、家族と連絡帳のやりとりをすることにより、家族の声を聞くことができるようにしている。			ユニット毎に自己評価を行い、外部評価結果を基に改善計画をたて、ケアの見直しの機会としている。 また、職員会議で課題等を取りあげ、職員間で意見交換しながらケアにつなげている。
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価を活かし改善に取り組みたい。					
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み	会議のメンバーに家族代表が入り、意見は活かされている。	○				2か月毎に開催し、外部評価に伴う改善計画について意見を求めながら取り組みにつなげている。 また、毎回課題を設けて委員から意見や要望を求め、事業所運営に反映させている。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している運営推進会議のメンバーに利用者や家族代表も入って意見が反映されている。	○				
6	9	○市町村との連携	市町村行政に限らず、市立病院との医療連携や、消防署との防火訓練等で、意見交換したり、指導を受けることでサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	認知症医との連携。			地域包括支援センター主催の認知症サポーター養成に携り、介護保険事務所と連携してサービス利用の情報共有に努めているほか、社会福祉協議会とはボランティアの受け入れに関して連携している。 また、市立病院から認知症の勉強会を実施してもらうなど、医療機関や消防署とも協力体制を確立している。
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターが行う認知症キャラバンや消防署との防災訓練、市立病院との医療連携等取り組んでいる。	○	防災、医療等深める。			
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用	包括支援センター開催の研修に参加したり、全体会議や運営推進会議の中で取り上げ、理解を深めている。	○	成年後見制度について、ニーズが多く必要な人には専門員を紹介している。			
		管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議や研修等で理解を深めている。	○	成年後見制度については今後活用広めたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、全体会議の中で取り上げ、職員の意識を確認したり、毎日の業務の中で意見交換や相談をすることで、一人で悩んだりストレスをためないように努めている。	○				
			法令について学びまた、虐待防止マニュアルを良く理解し注意したい。	○				
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にパンフレット及び運営規定、重要事項の説明書等をして、契約もお互いに確認し承諾書を頂いている。	○				
			入所時にパンフレット、及び運営規程、重要事項説明書等で充分説明し確認し承諾の上、契約している。	○				
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、苦情申し込み先として、当ホーム（意見箱）以外に、介護保険事務所、包括支援センター、国保連の3ヶ所に対応し運営に反映させています。	○				
			毎月の家族との連絡帳や担当者や家族との電話での話し合いや「苦情箱」への投書、また、重要事項説明書に案内している外部3団体を紹介し活かしている。	○				
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回家族との連絡帳での報告や要望のやりとりの他、預り金等の金銭管理の報告も定期的に行っている。又定期的以外にも電話で報告、連絡、相談等をしている。	○	花みづき通信を発行し、事務所の様子を紹介している。	連絡帳により利用者一人ひとりの状態を報告し、毎月「花みづき通信」を発行して事業所全体の状況を知らせている。 また、遠方の方には電話でも報告しており、増設した2号館では「2号館友の会」を送付して、より詳細な生活状況の提供に努めている。	○	2号館の取り組みを1号館でも取り入れ、事業所全体での情報提供の仕組みを確立させてほしい。
			月1回の「連絡帳」と「2号館友の会」を家族に送り、病院受診時の報告や金銭管理の報告をしている。	○				
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情対応窓口を明記し、事務所に投票箱を設けている。又、家族の面会時には意見や要望に耳を傾け、ケアに活かすよう努めている。	○	2ユニットに伴い、早期に家族会の設立に取り組む事。	前回評価結果を受けて投票箱を増設し、訪問時や面会時に意見や要望を伝えられるよう配慮している。 また、連絡帳を送付した際に返信用封筒を同封するなど、家族の潜在的な意向の把握にも努めている。	○	前回調査時から「家族会」の設立を検討しているが、遠方の家族もおり実現には至っていないため、家族の意見も確認しながら引き続き「家族会」の設立を働きかけてほしい。
			毎月の家族との連絡帳や担当者や家族との電話での話し合いや「苦情箱」への投書、また、重要事項説明書に案内している外部3団体を紹介し活かしている。	○				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議での職員からの活発な意見交換が交わされる他、入退居可否等についても審査委員会等で話し合い反映されている。	○					
		月1回の全体会議や入居者の可否については審査委員会等で話し合い運営に反映させている。	○					
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務体制はできる限り、希望を取り入れて調整し、又行事や病院付き添い等、緊急時にも職員の人員を調整し対応できる勤務体制を取っている。	○	利用者の状況、状態により勤務時間の変更				
		勤務体制については職員の要望の他利用者の状況に応じて柔軟に対応している。	○					
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の雇用については、全員正社員として、雇用しており勤務条件も整え、離職防止に努めている。離職する場合には、職員、並びに利用者の担当者にしっかり引き継ぎを行い、利用者へのダメージを防いでいる。	○		すべて正職員として雇用しているため、離職防止とケアの質の向上に努めている。 また、ユニット間の行き来があるため、退職や異動時には以前から馴染みのある職員を配置するなど、利用者の負担軽減に努めている。			
		当ホームの職員は全員正職員として雇用されており、会社の方針として長期雇用による馴染みの職員として利用者等へ配慮されている。	○					
5. 人材の育成と支援								
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内外等に、積極的に研修に参加しレベルアップを図っている。又、資格取得による手当支給など職員の意欲向上につなげている。	○		年間研修計画を作成し、全職員が計画的に研修を受講できる体制を整えているほか、外部からの研修や実習生も受け入れて職員の質の向上に努めている。 また、資格取得による手当支給を設けるなど、認知症ケアの専門職として職員の意欲向上を図っている。	○	年間研修計画に職員の評価や目標などを反映させるなど、職員一人ひとりが段階的にスキルアップできるような仕組みづくりを検討してほしい。	
		当ホームの採用条件に向上心のある方、資格要件としてヘルパー2級以上の条件が課せられ介護福祉士等の国家資格に資格手当が支給されている他認知症専門研修等については県主催の他全国グループホーム協会主催の研修へ全職員を対象に計画的に進めている。	○					
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域の連絡協議会に加入し、管理者が役員を務めるなど同業者間の交流に積極的に関わっており、研修会や勉強会に参加している。又、職員も人数に分かれて、他業者所へ訪問し、お互いのケアの内容を参考にするなどサービスの向上につなげている。	○		県及び圏域の連絡協議会に加入し、法人代表者や管理者がそれぞれに役員を務め、研修や勉強会にも積極的に参加している。 また、他事業所を訪問して一緒に過ごし、ケアのあり方を参考にするなど互いに質の向上を図っている。			
		当ホームでメンバーとして加入しているのは①秋田県グループホーム連絡会 ②大曲仙北連絡協議会 ③大曲仙北地域ケア従事者連絡協議会 ④全国グループホーム協会等に加入して勉強会、相互訪問し、活動については地域行政の保険者より高く評価されている。	○					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み	勤務体制シフト時はできる限り職員の都合、希望を取り入れるように図っている。又、会社負担で年1回温泉旅行を実施している。	○				
		運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の勤務体制については出来る限り希望を取り入れてシフトしており、職員の体調により柔軟にシフトの組み換えも行われている。	○				
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み	昇進、昇給制度、研修制度等で対応している。	○				
		運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	昇進、昇給、研修制度が明示されている。	○				
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係	入所前の認定調査で本人や家族との相談や希望を聞く機会を持っている。日常的な会話の中から本人の思いや求めていることを組取れるような対応をしている。					
		相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談、申込の時点からホームの見学、体験を経て入居者と職員のコミュニケーションを図り信頼関係を築く努力をしている。					
	24	○初期に築く家族との信頼関係	利用する家族の立場になって、相談しやすい不囲気や、場を作ったり、前もってホームへ見学に来てもらったりしている。					
		相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談、申込の時点からホームの見学、体験を経て入居者と職員のコミュニケーションを図り信頼関係を築く努力をしている。					
	25	○初期対応の見極めと支援	介護サービス計画書により本人及び家族の意向を聞き、サービス支援を行っている。					
		相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護サービスの計画書に必要な支援事項や家族の意向を取り入れるように努めている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	家族と一緒にホームの見学や、食事をしたりしてホームの雰囲気に少しずつ慣れてもらうなどし、その後本人及び家族との意向を聞いた介護サービス計画書の作成を行い、同意を得たうえで進めている。	○		利用希望者に対しては職員が自宅を訪問し、本人及び家族の意向や状況を確認している。 また、本人及び家族が事業所を見学し、事業所の雰囲気などを体感したうえで利用につなげている。		
			家族と一緒にホームの見学や体験を通じて雰囲気に慣れて、本人が安心してまで待つ、納得した上で進めている。	○				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでは皆が家族、娘であり嫁でもいい、お互いに何でも話せる仲になり、場になっている。	○		調理の仕方や畑づくりなど、利用者の培ってきた経験から職員が学び、そこから日常生活の支援に生かしている。 また、利用者同士でも自分のできる範囲で積極的に関わり、事業所の中で支え合いながら生活している。		
			家庭的な雰囲気で共に支えあう関係づくりをしている。	○				
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との報告、連絡、相談はもちろん一緒に考え、時には助言したり、互いに支え合える関係作りに努めている。又、なかなか面会に来られない家族には電話等で連絡を密に取っている。	○				
			本人の状況については体調面、精神面について家族に連絡、相談、報告し支え合う関係を築いている。	○				
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のお互いの話しを聞き中継役となったり、遠方の家族には電話をかけてやり、話す機会を創っている。又、外泊、外出により本人と家族との支援も行っている。					
			外泊や外出等により本人と家族間の支援を行い、またホーム内でも電話等で家族の声を聞く機会を作っている。					
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで通っていた病院や美容室等馴染みの人や場所に可能な限り支援している。	○				
			これまで通っていた病院や美容院等馴染みの人や場所には可能な限り通えるよう支援したい。	○				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
	31	○利用者同士の関係の支援	利用者一人一人の性格を理解し、それぞれの話を良く聞き、平等に声かけし、レクレーションや仕事の振り分け、その場の雰囲気作りに気を配り良い関係を築く事に努めている。	○				
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で食事の準備をしたり、食器を一緒に洗ったり、職員はそっと後押ししている。	○				
	32	○関係を断ち切らない取り組み	ホームの便り等で定期的に連絡を取っている。					
		サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームのイベントに招待したり「花みづき通信」等で係りを持っている。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
1. 一人ひとりの把握								
14	33	○思いや意向の把握	夜勤時には、ゆっくり時間を取り思いや悩み、相談に対応している。	○		利用者との会話や表情などから思いや不安を感じ取り、夜間などに個別に話をする場面をつくり、利用者の潜在的な意向を確認している。また、確認した内容は必ず記録し、職員間で共有しながらサービスの標準化に努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくり話しを聞く時間を取り、悩みや相談に応じている。	○				
	34	○これまでの暮らしの把握	日常の会話の中から、また苦労話からこれまでの暮らし方や気持ちを汲み取り、行きつけの美容室、馴染みの店や馴染みの人の居る所を利用するよう努めている。					
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が長く慣れ親しんだ生活の場や生きがいであった人や趣味を汲み取ってあげる。					
	35	○暮らしの現状の把握	日勤者と夜勤者との引継ぎ時、現状の把握、報告、注意事項等で対応している。	○				
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のシートを取り入れながら、日勤者と夜勤者との引継ぎ等で状況を把握し報告し継続して全員が把握するようつとめている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の家族（来られない場合は意見書にて対応）と利用者、担当スタッフ、他スタッフとケアマネで話し合いをしている。医療面については、病院の医者に相談したり、ホームの常勤看護師に意見を聞いて作成している。	○		利用者及び家族の意向を踏まえ、主治医の意見を参考にしながら実現可能な目標を設定しており、看護師や職員、計画作成担当者それぞれの視点から意見や気づき、アイデアを出し合い無理のない介護計画を作成している。		
			ケアマネージャー、利用者の担当者及びスタッフで話し合い、また、医療面については病院の医師の所見、またホームの看護師の意見を聞き作成している。	○				
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化があったり、スタッフからの声により、計画を見直し家族に報告と了解を得て作成している。	○		毎月のモニタリングで利用者の目標到達度や状況変化などについて検証し、利用者及び家族の要望に応じても随時見直している。 また、見直しの際には家族に説明し、理解を得たうえで現状に即した介護計画として職員間で共有している。		
			変化や気になることがあれば計画の見直しを図り家族の了解を得て作成している。					
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し、連絡帳等でスタッフ全員で情報の共有を図ってケアに活かしている。					
			個別に記録し連絡帳等でスタッフ全員で情報の共有化を図り活かしている。	○				
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている				家族の状況に応じての通院支援や、外出支援などにより家族の負担軽減に努めているほか、ユニットを増設して地域のニーズにも対応している。	○	前回調査時から通所介護の必要性を認識しているため、地域のニーズ把握に努めながら、多機能性の充実に向けて可能性を検討してほしい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	運営推進会議のメンバーは民生委員、医療関係者、元教育関係者、利用者の家族、消防関係者がいる。又施設長は防犯協会の事務局を担当し、地域と深く関わっている。					
			運営推進会議のメンバーは民生委員、元教育関係者、医療関係者、消防関係者等が構成しており、施設長は防犯協会の事務局を担当し、地域と深く関わっている。	○				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の在宅支援事務所のケアマネージャーとは、入所前からの情報交換を図っている。						
		地域の在宅支援事業所のケアマネージャーには入所前からの情報もあり支援を図っている。						
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度の対応等で指導を頂いている。又、認知症を地域で支えるキャラバンメイト育成に携わっている。	○	成年後見人制度の活用。				
		地域の認知症高齢者を支える100万人キャラバン推進運動におけるキャラバンメイト養成研修や成年後見制度への対応では協働している。	○					
18 43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は月1回の割合で受診している。歯科医も月1回の往診で（口腔ケアの目的）にて利用している。薬局についても、受診のたび指導を頂いている。	○		利用者及び家族が望むかかりつけ医への受診のほか、協力医とも連携して受診を支援している。また、協力歯科医が毎月往診し、職員も助言を得ながら口腔ケアに努めている。			
		かかりつけ医（歯科医含む）は月1回の割合で往診に来ており薬局においても都度支援をいただいている。	○					
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	市立角館総合病院の精神科医師や県立リハビリセンターの専門医の支援を頂いている。	○					
		仙北市立角館総合病院の専門医の支援を得ている。	○					
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師の支援を頂いている。	○					
		当ホームの常勤看護師の支援を得ている。	○					
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	市立角館総合病院とその他個人医院と連携しており、入所者との契約では最長2ヶ月の入院まで（退所期限）安心してできるよう配慮しており、又、早期に退院できる様努めている。						
		仙北市立角館総合病院とその他個人医院と連携しており、入所者との契約では最長2ヶ月の入院まで（退院期限）安心してできるよう配慮しており、また早期に退院できるよう相談に努めている。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有	ターミナルケアの指針を定め同意をもらって共有している。	○		職員間でターミナルケアについて話し合い、利用者及び家族の意向があれば看取ることを確認しており、「ターミナルケアに関する指針」も定めている。 また、家族にも説明のうえ同意を得ており、職員の勤務体制や協力医との連携など体制を整えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針を定め、同意書をもらい共有している。	○				
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援	上記と一緒に					
		重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記と一緒に。					
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止	本人と家族、施設間で情報交換し居宅のケアマネジャーとの連絡を取り合ったりダメージを防ぐよう努めたいと思う。					
		本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人及び家族・施設間で情報交換し、ケアマネジャーと相談し、本人の馴染みの物を持ってきてもらい、ダメージを防ぐように努めている。					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1)一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底	記録等の個人情報研修等で使用する場合は本人家族の同意を得ている。日常のケアも利用者にとってできるだけ寄り添ってケアをしている。	○		利用者への声かけや態度は家族のようで、利用者の主体性を尊重しながら丁寧に接している。 また、面会時は居室で過ごし、家族だけの時間を確保するなど配慮しているほか、個人ファイルは表紙に記名せず、キャビネットに保管してプライバシーや個人情報保護に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	そのような対応はしていない。					
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援	ホームの理念である「自立と相生」の自立としての本人の思いや、希望はできる限り支援している。					
		本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ホームの理念である「自立と相生」の自立としての本人の思いや希望は、可能な限り支援を図っている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし	利用者のペースに合わせ、ゆったりとした日常生活を送ってもらっている。			利用者の自由な散歩や外出、食事、入浴時間の柔軟な対応など、利用者一人ひとりの意向を優先して支援している。 また、俳句や絵画などの趣味活動にも親しみ、横になってテレビをみたりと思い思いに過ごしている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのんびりゆったりと日常生活を送っている。					
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
22	53	○身だしなみやおしゃれの支援	個々の趣味に合わせ店に行っている。			/		
		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の馴染みの店に行っている。					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援	その日の献立を見もらうことで、食事の準備や手伝いを楽しみながら行っている。献立は利用者の希望を取り入れながら考えて立てている。	○		買い物から調理、盛り付け、配膳から後片付けに至るまで、一連の流れを利用者と職員がともに関わり、急な献立の変更にも柔軟に対応している。 また、自分の湯呑や箸を使い、行事などの際には外食を楽しむなど、食事を楽しめるよう工夫している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を選んでもらったり、料理の下準備・調理・盛り付け・後片付けまで全てスタッフで行っている。					
22	55	○本人の嗜好の支援	おやつや飲み物は好みを聞いて、飲んでもらっているが、お酒に関しては、薬の飲みあわせで、医師と相談しながら対応している。			/		
		本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物は好みを聞いて対応しているが、お酒については服薬の関係から医師と相談しながら対応している。					
22	56	○気持ちよい排泄の支援	利用者の排泄パターン（行動サイン）を見逃さないように援助している。			/		
		排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように「尊厳の保持」に配慮して支援している	できる限りリハビリパンツの使用を減らすように努めている。					
23	57	○入浴を楽しむことができる支援	週に2回の入浴（必ず入浴してもらいたい日）の他利用者の希望や発汗などに合わせて入浴を援助している。			入浴日を週2回と決めてはいるが、利用者の希望やその日の状態に応じて、シャワー浴や近隣の温泉施設に出かけて入浴を楽しめるよう支援している。 また、必要に応じて法人代表者がケアに関わり、同性介助についても確認しながら早朝や夜間入浴にも対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日も決めてはいるが、本人の希望があった時は入浴を楽しめるように支援している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせて援助している。また、適度な運動を取り入れ安眠へつなげている。 生活習慣に合った休息の取り方を個々に支援している。					
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩や畑仕事、掃除、買い物、家族との交流等、利用者に合わせて援助している。 散歩や畑仕事・掃除や買い物等一人ひとりの支援をしている。	○			畑仕事や掃除、買い物などのほか、男性利用者が配膳を行うなど、一人ひとりが役割を認識して率先して行っている。 また、趣味の俳句や絵画、散歩、外食や温泉入浴などのほか、行事時の飲酒などで気分転換を図っている。	
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を大切に所持したり、使えるように見守ったり支援している。本人がどうしたいのか希望を取り入れ、買い物に行きたい時やほしいものがある時に支援している。 定期的に機会を与えて、自由に買い物に行っている。	○				
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物の支援や自宅に行きたい時に連れて行くなど支援している。 散歩をしたり、買い物に出かけている。花栽培の農家へ遊びに行ったりしている。	○			住宅地の中で交通量も少ないことから、利用者が一人で散歩に出かけたり、遊びに出かけている。 また、季節毎の行事のほか、自宅への一時帰宅などでも外出機会を確保している。	
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と一緒に外泊したり、外出ができるよう支援している。又外食やお花見、温泉などへも希望に添って対応している。 買い物・お花見・外食・温泉等希望に添った対応をしている。	○				
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所前カウンターに電話があり、誰でも自由に使用できるように支援している。又、絵手紙の指導ボランティアにより家族との葉書のやり取りも支援している。 事務所前のカウンターに電話があり、誰でもいつでも使用できるよう支援している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室のスペースを広く取っており、家族や知人が来た時に、ゆっくりと過ごせるような作りになっており、好きな所で過ごせるよう支援している。 家族や知人が入室しても十分な広さがあり、気軽に訪問できるように努めている。	○				
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法令順守をモットーに「身体拘束マニュアル」を作成し、ケアに取り組んでいる。	○	「身体拘束その他行動制限廃止マニュアル」の職員の理解を深める。			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	ドアはいつもオープンにしており、鍵をかけずに安全で安心して過ごせるようにして行く。 日中は玄関をオープンにしている。玄関にはセンサーが付いており、職員は出入りを把握できるシステムになっている。	○	出入口には、センサーが付いており、職員は出入りの状況をいつでも無理なく把握できるようになっている。 利用者の自由な外出を支援するため、日中は玄関に鍵をかけず、センサーや見守りにより外出を把握しており、無理に引き止めることなく必要に応じて付き添いしている。 また、周辺の危険箇所を確認しており、近隣住民の声かけや見守りによる協力体制も整えている。			
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	普段の生活の中で、自然に一人ひとりの行動や所在を把握して対応している。 日常生活の行動を把握して対応している。	○				
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や薬品の管理、刃物、火気も含めて工夫して保管している。 注意の必要な物品は、工夫して保管している。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ヒヤリハット」を作成して対策に取り組んでいる。 「ヒヤリハット」を作成し、対策に取り組んでいる。	○	「ヒヤリハット」の内容を職員同士で確認し、原因や予防策について考える。 「ヒヤリハット」の理解を深める。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	消防署の普通救命講習を職員全員が受講して、知識、技術を取得するよう努める他、医師や看護師の指導を受けている。	○	心肺蘇生の指導を継続する。				
		消防訓練の中に心肺蘇生の指導（2年に1回）を受けて対応している他、医師や看護師の指導を受けている。	○	心肺蘇生の指導を継続する。				
27 71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回以上（夜間想定も含め）火災訓練を地域の人達と協力しておこなっている。		消防署立会いでの非難訓練を行い消火訓練や、夜間一人の時の対応などについて指導を受けている。	消防計画書を作成し、消防署と老人クラブ、地域住民の参加・協力を得て年2回以上の避難訓練や消化訓練を実施している。 また、非常食を確保しており、各ユニットに火災報知機を設置して緊急時に備えている。			
		年に2回以上（夜間想定も含め）火災訓練を地域の人々と共同で行っている。		夜間の非難訓練や心肺蘇生研修に努める。				
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	身体、精神面にリスクは多くなってきているが、その都度、家族に説明し、その人に合わせて大切に援助している。	○					
		その都度家族に説明し、その人らしさを大切に対応している。	○					
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	マンネリ化にならないよう、日々のケアに注意し、体調に変化、早期発見に努め対応を話し合っている。	○					
		毎日のバイタルチェックや日々のケアに注意し、体調変化・早期発見に努め対応を話し合っている。	○					
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者、一人の服薬の量と種類も多く管理には、最細心の注意を払って、服薬支援を図っている。又、その症状と変化の確認には注意深く努めている。	○					
		薬の管理には、細心の注意を払って、服薬支援を図っている。	○					
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を多く取り入れる献立と水分補給に努め、適度な運動を促すよう努めている。						
		野菜を多く取り入れる献立・水分補給に努め、適度な運動を促すように努めている。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ホームの職員に歯科医院勤務経験者がおり、口腔ケアに精通し模範となっている。また、食後に、一人ひとりに合った口腔ケアをしている。						
		注意した支援を行っている他、月に1回は連携歯科医の訪問診療を受けている。	○					
28 77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック、水分量のチェックは一人ひとりの状況に応じた支援をしている。			利用者一人ひとりの食事や水分摂取量をチェック表に記録し、職員間で共有している。 また、利用者の状態に合わせて調理方法を工夫し、食欲のない方には医師の指示に基づき流動食の準備も整えている。	○	定期的に栄養バランスやカロリーを確認する意味で、地域の栄養士などに献立をチェックしてもらうなど、栄養バランスに偏りがないよう努めてほしい。	
		食事摂取量チェック・水分摂取量チェックをし、一人ひとりの状況に応じた支援をしている。						
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	予防対応マニュアルがあり、手洗い、うがい励行の他、寒冷期の空気の入替え、乾燥期の外出にはマスクを着用等、注意を払っている。						
		ホーム内予防対応マニュアルが表示され、手洗い・うがいの遂行の他、寒冷期の空気の乾燥期の外出には、マスクの着用等注意を払っている。	○					
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は常に衛生管理を徹底し、食材は新鮮で安全な物を使用し、布巾等は毎日塩素消毒して管理に努める。						
		台所は常に衛生管理を徹底し、食材は新鮮で安全なものを使用している。ふきん・おしぼり等は毎日塩素系消毒して管理に努めている。	○					
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり								
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの入り口は道路に面して、小学校の通学路になっており、子供達も気楽に立ち寄れるように開かれている。玄関周りに草花の鉢植えがあり近所の人も気さくに訪れる。						
		ホームの入り口は道路に面しており、気軽に立ち寄れるように開かれている。玄関先にも花・野菜のプランターがあり、近所の人も気さくに訪れている。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の設備には「自動換気システム」が全室にあり、毎回作動しており、新しい空気が入っている。南向きの住宅になっており、自然の採光と季節感のある樹木に恵まれている。			テーブルや畳のスペースのほか、ソファを設置して利用者が自由に過ごせるよう配慮している。 また、事業所内は清潔で明るく、自動換気システムにより不快な臭いを解消するなど、快適な居住空間を整えている。		
			ホーム内の設備には「自動換気システム」が個室毎に作動している。また、季節感ある木々に恵まれている。					
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテレビとソファがあるので好きな時に利用し交流できるようになっている。					
			ほぼ思い思いに過ごせる状況にある。					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が、長年自宅などで使用していた物を、ホームに持ち込んで使用し自宅で過ごしているような、居室作りをしている。	○		前回調査の結果を受け、ベッドの部屋でも畳を敷けるよう工夫し、利用者のニーズに応じている。 また、使い慣れたタンスやテーブルを持ち込み、家族の写真や置き物などを飾り、利用者の個性ある居室づくりを支援している。		
			自宅で使用していた馴染みの家具等も持ち込んで、居心地良く過ごせるように支援している。					
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員が気をつけて、温度調整をし、常に適度になるよう心がけている。					
			「自動換気システム」を設置している。また、温度も一定に保たれている。					
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合った部屋の内部の環境作りをしている。廊下や各要所に、手すりを設置、安全に生活できるように工夫している。					
			自分の部屋という意識を活かし、全てに手すりを設け、自立を安全に工夫している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の前には、自分の名前や写真があり、確認できるようにしている。トイレなど、利用する場所には、目の届く所に、張り紙で表示している。					
			居室入口には、ネームプレートを設置し、確認できるように支援している。また、トイレの表示も大きく貼り紙で促している。					
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの裏にテラスがあり、お茶や会話も楽しんでいる。畑もあり、活動を楽しんでいる。	○				
			ホームの玄関先にベンチを設置し、花や野菜のプランターも設置し、眺めたり野菜づくりを楽しんでいる。1号館と共同の畑もあり、季節の野菜を楽しんでいる。					

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと) ①：1ユニット(1号館) ②：2ユニット(2号館)	
V. サービスの成果に関する項目		①	②
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1、自立と支援のメリハリ
2、ターミナルケアの試み

自立と支援のメリハリです。利用者が役割を持って生活しているのでアピールしたいと思っています。